

## 第98回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和4年9月22日（木）

午後7時～午後8時20分

会 場：城山総合事務所第1別館2階B会議室

出席者：19名（欠席6名）

傍聴者：3名

1 開 会 佐藤所長

2 代表あいさつ 齋藤代表

3 議 題

(1) 令和4年度城山地区まちづくりを考える懇談会について

ア 実施要領等について

《 主な意見 》

- ・以前、懇談会に出席して、開催時間が非常に短いと感じている。時間を気にすることなく、もう少しじっくりと話し合える時間で開催してほしい。  
⇒ とりまとめを行っている市民協働推進課に意見として伝える。

イ テーマと内容について

《 主な意見 》

- ・リニア中央新幹線の回送線の旅客化等これからの城山地区のまちづくりの将来展望についても、これからの若い人の移住を促す、魅力を感じる環境づくりにも関係するので市に聞いてみたい。
- ・リニアに関することや城山地区のまちづくりについては、城山地区にとって大切なことであるため、懇談会のテーマとは別枠で情報提供等をしてもらいたい。
- ・資料5の●●となっているところで、東原宿の国道から一つ入った道路の歩道に草がいっぱい生えている。
- ・東原宿の国道から一つ入った道路で自転車に乗っている人が、縁石に引っ掛かり歩道側に倒れたが、車道側に倒れていたら事故に繋がっていた。歩道の整備もしてほしい。
- ・このテーマシートだけではなく、歩道の危険箇所等整備をしてほしい要望箇所のリスト等を添付してはどうか。また移動支援に関しても具体的にどうしてほしいかという要望を添付したらどうか。ただ市の取組を説

明してもらうだけではなく、具体的な要望を記載して、それに対する回答・市の考えをもらったかどうか。

- ・市に聞きたいことに関しては、懇談会とは別にまちづくり会議として書面で質問をしてはどうか。
- ・実施要領からすると、具体的な質問等は、懇談会の趣旨とは違うのではないかと思う。回答をもらう必要がある事項は、書面等で行っても良いかと思う。
- ・形だけで懇談会で行うのではなく、住民の意見・要望を伝え、それに対して市の考えを聞かなければ意味がないのではないか。
- ・細かい質問等をするとできる・できない、それは担当が異なる等の回答だけで終わってしまうため、実施要領にもある未来について懇談するならば、必要なことに対してできる・できないを聞くのではなく、どうして解決していくかを懇談したらどうかと思う。
- ・今回の懇談会は、「安心して移動できる環境づくりについて」というテーマで資料5のような内容で行っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

⇒異議なしの声

## (2) その他

- ・令和4年4月にまちづくり会議等の意見を踏まえ作成された城山地区防災計画の修正版について、各委員へ配布がされた。
- ・4月28日に開催された全体会で承認がされた「コミュニティ広場・駐車場及び天空の里駐車場開放に関する要望書」の提出について、中野城山観光協会会長、齋藤まちづくり会議代表、平栗城山商工会会長で8月24日に相模原市長、8月26日に川尻財産区井上議長に要望書を提出した旨齋藤代表より説明がされた。

## (3) 城山地区で具現化していく取組について（部会検討）

全体会では、事務局から資料6・7に基づき、各部会での検討事項の説明がされ、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後解散となった。

## 4 閉 会 八木副代表

以 上

## 【全体会終了後の各部会での検討内容】

### ●高齢者とともに築き支える地域づくり部会

#### しろやま☆おせっかいの取組について

前回、前々回の「おせっかい」とは何か、「おせっかい」さんってどんな人等の検討を踏まえ、実際に「おせっかい」を地区内に広く根づかせるための具体的な取組（見える化）について検討がされた。

#### 《 主な意見 》

- ・月1回、地区内を順番で回り、地区内を清掃し、参加者にはバッチを配布したりして地域との繋がりを持つ活動をしたらどうか。
- ・おせっかいを広めるためには、活動を知ってもらうため、何らかの活動が必要。
- ・具体的な活動を考えていきたい。
- ・元々おせっかいは、人と人のつながりが無くなっているというところからきている。美化活動をとおして、繋がりを作り参加者を増やしていく必要がある。
- ・参加したらバッチを配布し、おせっかいの意識をもってもらおう。
- ・子どもに対するおせっかいの取組があっても良いのではないか。

### ●子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

#### 子どもたちが主体的に活動できる取組について

前回及び前々回、部会で検討してきた子どもたちが参加できる活動・行事（イベント等）や活用できる地域資源に関する情報の集約結果をもとに、今後の取組方法についての検討を行った。

#### 《 主な意見 》

- ・小島部会長から子どもたちから聞かれたときに提供・教える情報を持っておくことは、必要と考えるが、委員が毎年変更することもあるため、まちづくり会議の委員が何かを実際に取組むことは現実的に困難であり、趣旨を継承・継続していくことも難しいと考えられるため、部会で検討してきた課題について、継続してできる他の団体と協力して実施していく方法はどうかという提案がされた。
- ・部会員が時間をかけて情報を集め子どもたちに提供することも負担が大きいと、しかるべき団体の協力を得ながら行っていくことが妥当ではないか。
- ・城山地区には新たに城山子ども会という団体できた。部会の趣旨を

- 理解してもらえるのであれば、協力してもらってもよいのではないか。
- ・タイアップして行うのは良いのではないか。
  - ・子どもたちをどのように集めるのか、どういった子どもたちを集めるか。
  - ・何もテーマを決めないと子どもが集まらない。ある程度のテーマは決めても良いかと思う。何もない中で話し合っ決めていくのはかなり大変かと思う。
  - ・ある程度のテーマは必要と思う。
  - ・子どもたちの主体性とは、選択肢があった際に決めることができることなのか、それとも情報が与えられた際に企画を立てることなのか、この部会が子どもたちの何の主体性を育てたいのか、子どもの主体的などういった能力を伸ばしたいのか、そういったことにより内容も変わっていくのではないか。子どもたちに考えてやらせたいのであれば、知識、技術が足りないということとなり、そこを誰かが補わなければならないということになる。
  - ・自分の考えを言えるということが大切で、お互いが話し合い決めていくことだと思う。
  - ・意見を言えない子どもたちが多いとは感じるが、体験、経験により知識は蓄えられる。自信がないと子どもたちは口を開かない。いきなり意見を求めるとなかなか難しいと感じる。まずは色々な体験・経験をさせて、こうしたらどうかとか他の人の話を聞いて、自分なりに意見を言えるようにしたらどうか。
  - ・子どもたちに、まずは色々な経験をさせたい。話し合い等も大事であるが、上級生との関わりから、色々な経験や体験をし、自信を持たせたい。そうすることにより、発言力もついてくるのではないか。
  - ・今後は、一度城山子ども会の代表の方と話をし、まちづくり会議の部会での検討内容や趣旨を伝え、子ども会の行事の中で一つ部会の検討してきた趣旨の内容のものを取り組んでいけないか相談してみたいと思う。
  - ・NPO法人城山スポーツ&カルチャクラブめいぷるにお願いしても良いのではないか。

以 上